

未成年者の飲酒は危険です！

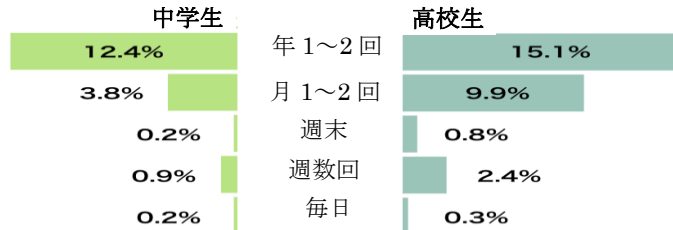
話してみませんか？

未成年者がお酒を飲まないよう見守るのは、大人の義務です

これが実態！

中学生の5人に1人(高校生の3人に1人)が飲酒しています

【中学生・高校生の飲酒の現状】



平成24年度『未成年者の喫煙・飲酒に関する実態調査研究』より

まちがった
子どもの認識

テレビで見ると
おいしそう

親も何も
言わない
少しだけ
ならいい

友達も飲んで
いるからいい

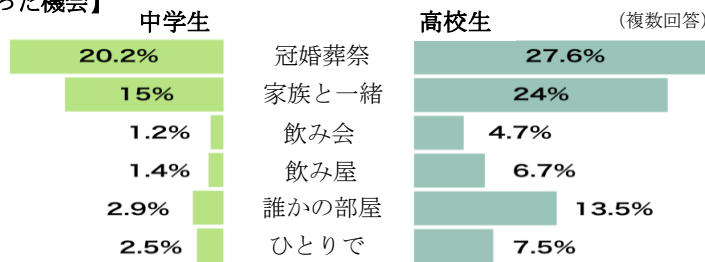
飲まない
と仲間はずれ
になる



気をつけて！

子どもの飲酒機会は『大人と一緒に』のことが多いのです

【飲酒経験のあった機会】



平成24年度『未成年者の喫煙・飲酒に関する実態調査研究』より

まちがった
大人の認識

特別な行事の
時ならいい

もう
大人に近い
から大丈夫

少く
ならいい



ご存じですか？

ノンアルコール飲料を飲んだことがある子どもは、飲んだことのない子どもに比べて
未成年時の飲酒が約4.5倍になっています

未成年者の飲酒は、成長を妨げるからこそ、絶対にダメなのです

- ① 脳の機能を低下させる
- ② 肝臓などの臓器に障害を起こす
- ③ 性ホルモンに異常が起きる
- ④ 少量で急性アルコール中毒の危険
- ⑤ 短期間でアルコール依存症の危険
- ⑥ 法律で禁止されている

【急性アルコール中毒】

イッキ飲みなどで一度に多量のお酒を飲むと、脳の全体が麻痺して、死亡することがあります。

20歳代が4割以上！

【アルコール依存症】

生活や仕事に影響が出ているのに自分の意志では飲酒コントロールできなくなる心の病気です。

【習慣的飲酒開始から発症まで】
中年男性：約15～20年
中年女性：約5～10年
未成年者：約数ヶ月～2年！

私たち大人ができること・気をつけたいこと

- ◆未成年者の飲酒は認めない。決して勧めない
- ◆雰囲気やノリで飲酒しないよう、断り方を教える
- ◆大人自身が見本となるよう、適正飲酒を心がける



大人も気をつけたい 多量飲酒による「酒害」

一日の適量は男性はビールなら500ml 1本(女性や高齢者は男性の半量)とされています。
多量飲酒(ビールなら一日に500ml 3本以上)を続けると、様々な「酒害」を引き起こします。

身体的問題

脳や臓器の障害
がん
生活習慣病

精神的問題

不眠・うつ病・幻覚症状
アルコール依存症
認知症関連症状

社会的問題

自殺・傷害
失業・浪費
暴力・飲酒運転

【お酒の害についての相談窓口】 自分や家族のお酒で、悩み、苦しんでいませんか？ひとりで悩まず、ご相談ください。

三原市保健福祉課
0848-67-6061

本郷保健福祉センター
0848-86-3609

久井保健福祉センター
0847-32-8551

大和保健福祉センター
0847-34-0960

広島県東部保健所保健課
0848-25-2011(代)

広島県総合精神保健福祉センター
082-884-1051

三原断酒友の会(会長甲田さん)
080-5232-0656

医療機関(精神科・心療内科)でも相談できます。

【なぜ未成年者の飲酒はいけないの？】【保護者のみなさまへ】 参考引用 公益社団法人アルコール健康医学協会ホームページ・ビール酒造組合『適正飲酒のすすめ』アサヒビールホームページ・公益財団法人日本学校保健会『高校生に知ってもらいたい飲酒リスク』『子供の飲酒を防ぐのはあなたです』

お問い合わせ先 三原市保健福祉課 (0848)67-6061